

News Letter

干し柿（北栄町）

2023年
12月
中国四国農政局
鳥取県拠点

鳥取を耕す理由（わけ）を教えてin倉農

11月22日、中国四国農政局鳥取県拠点は、鳥取県立倉吉農業高校と共催し、県内農業者と農業高生が対話するイベントを開きました。

このイベントは農業者が農業の魅力や厳しさ、就農したきっかけなどを生徒たちに直接伝え、農業への理解を深めてもらおうと企画したもので、2回目となる今回は下記4名を講師に迎え、同校と日野高校の生徒計53人が参加しました。

- 中川 晋詞氏（JA鳥取中央倉吉西瓜生産部会 新規就農担当役員）
- 高島 祐亮氏（株式会社SC鳥取経営企画 本部長）
- 山本 暁子氏（猟師）
- 渡邊 博之氏（渡辺のびのび農園専務）



ディスカッションの様子



真剣な生徒達



高島 祐亮氏（左）



中川 晋詞氏（右）



山本 暁子氏



渡邊 博之氏

生徒達は4つのグループに分かれ、それぞれのテーマに沿ってディスカッションを行いました。講師は質問に対して丁寧にアドバイスし、生徒達はメモを取りながら真剣に聴いていました。

生徒は「農業者との対話を通して、農業はやりがいがあると感じた」、「自分が栽培したものが消費者に届く喜びが農業にはあると思った」、また、同校の竹内善一校長は「本日学んだことを活かし、県内農業の担い手として活躍を期待する」と話していました。

中国四国農政局鳥取県拠点は、今後も県内で学ぶ農業高校生の未来に向けた活動を支援していきます。

毎年支出金額トップクラス、カレーの聖地鳥取！

来月22日は「カレーの日」。1982年、栄養教諭らで作る全国学校栄養士協議会がこの日に合わせて、カレーを給食メニューとして提供するよう全国の学校に呼びかけたことに由来します。当時から子供たちに人気だったカレーは「国民食」として定着していきました。

そんなカレーをよく食べている街、鳥取。2003年に購入量、支出金額ともに初めて全国1位になって以降、毎年全国トップクラス。総務省が2018～20年の3年間で、各市の品目別支出金額の平均値を比べたランキングでは、鳥取市が1,855円で全国1位。

なぜ鳥取県で大量にカレーが消費されるのか。明確な理由はないですが、いくつかの仮説があります。

1つ目は、らっきょうの生産量。らっきょうは、カレーの付け合わせとしておなじみですが、鳥取県はこのらっきょうの生産量が日本一。鳥取県では多くの家庭で自家製のらっきょうを漬ける文化があり、らっきょうを食べるためにカレーを食べているという考え方もできます。

2つ目は米どころであること。鳥取県は古くから米どころとして知られています。県西部にある米子市の名称の由来は、米がよく穫れることを意味する「米生郷（よなうごう）」に基づいているといえます。カレーの消費量が多い県は米の産地であることが多いため、米づくりが盛んなことが影響していると言われています。

3つ目は、共働き世帯の割合の高さ。総務省統計局による「都道府県別夫婦共働き世帯数及び割合」では、鳥取県の共働き世帯の割合は、2012年が52.7%、2017年が54.9%と全国的に見ても高いです。共働きの家庭では、効率的に家事をこなすために、手軽に作れるカレーが選ばれていることも理由としてあげられています。

鳥取県といえばカニや梨が思い浮かびますが、カレーも人気で、カレーを愛する鳥取県だからこそ、バラエティに富んだ商品が存在します。

鳥取県の自慢のカレーをぜひ一度ご賞味ください。



まちパル鳥取のカレーコーナー



たくさんの鳥取レトルトカレー

撮影協力：まちパル鳥取 鳥取市ふるさと物産館

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 鳥取県拠点

〒680-0845 鳥取県鳥取市富安2丁目89番地4 鳥取第1地方合同庁舎

TEL (0857)22-3131(内線662) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>